

第1回アート・ドキュメンテーション研究 フォーラムからはや一年…

東京国立近代美術館 水谷 長志

昨年の11月18-19日の二日間にわたって、アート・ドキュメンテーション研究会は国立国会図書館との共催により、同館新館講堂と地階展示室において、第1回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム「美術情報と図書館：Art Information and Library Services」を開催しました。本誌編集部よりその報告を書くように言われ、あれからもう一年が経とうとしているのだと、あらためて時の過ぎ行く速さに驚いています。

この原稿は10月29日に書いているのですが、昨年の今ごろ何をしていたかと去年の手帖をひっぱり出すと、展示室でおこなった「日本における美術書の流れとマルチメディア」に必要な関係資料を借用するため、慶應義塾大学や図書館情報大学、横浜美術館などへ借用の依頼状を出したり、実際に資料を確認しに向いたり、席の温まる暇のなかったことが思い出されました。

この展示では、「第1部 日本における美術書の流れ」と10社の企業からなる「第2部 美術情報とマルチメディア」の展示と二部構成になっていました。第1部は、「美術全集」からはじまって、雑誌・教科書・展覧会カタログ・美術参考図書に「アート・ドキュメンテーション関連文献」にいたるまで、さまざまな美術関連の資料を7章に構成し、その章立ての検討から、リストの作成、所蔵先の確認、借用の依頼、集荷、章解説のパネルやキャプションの作成、展示、そして撤収と、ほぼ一年の試行錯誤としんどさや楽しさの入り交じった不思議な労働の結果でした。わずか二日の展示期間ではありましたが、およそ700件の資料を集めて一堂に展示できたことは、資料提供や展示工作において多くの機関、個人からのご協力があった初めて可能であったと、あらためてお礼申し上げます。

地階展示場でこのような展示を行う一方で、上の講堂では、「美術情報と図書館」という統一テーマを掲げて、「アート・ドキュメンテーションの職能と教育」についての研究発表5件が第1日目の18日午後に行われ、翌日は午前10時半より夕方5時まで、「美術研究者と美術図書館員—電子時代の技能と領域」と題するオランダ王立図書館美術部長で国際図書館連盟〔IFLA〕美術図書館分科会前議長マギー・ウィスハウプト女史による講演、熊田淳美氏（当時、国立国会図書館副館長）による特別報告「マルチメディアと国立国会図書館関西館（仮称）構想」、そして高階秀爾氏（国立西洋美術館長）、上田修一氏（慶應義塾大学文学部図書館・情報学科教授）、情報知識学会副会長でもある安澤秀一氏（駿河台大学文化情報学部長）をパネリストに迎えてのシンポジウム「ミュージアム・ライブラリ・アーカイヴをつなぐもの—アート・ドキュメンテーションからの模索と展望」まで、多くの聴衆のご参加と熱心な質疑があったことを幸いに思っています。

このフォーラムは、1989年に発足したアート・ドキュメンテーション研究会の事業をふり返るとともに、約5年間にわたってこの研究会が提示することを試みてきた課題が、今後どのように展開されねばならないのか、あるいは軌道修正されねばならないのかを考える、貴重な「出来事」でありました。

また、フォーラムが終わって、数日後の勤労感謝の日に、オランダという山のない国からのゲストであるウィスハウプト夫妻とともに、奥多摩の御嶽山に遊んだことも、良き思い出に残るものでした。

とにかく大きなイベントをこなすと、一時、脱力状態にもなりますが、情報知識学会のニューズレターの編集担当者ともなっている千速敏男さんの陣頭指揮のもと、今回のフォーラムは一年を経ずして、189ページにおよぶ報告書となって記録されております（MacintoshのDTP機能の驚くべき力！）。ご希望の方は、定価2,500円ですが、委託販売元の日本図書館協会までお申し込み下さい。連絡先は下記の通りです。

〒154 東京都世田谷区太子堂1-1-10

日本図書館協会出版事業部

TEL: 03-3410-6415

FAX: 03-3421-7588

郵便振替: 00100-1-9375

さて、フォーラムというステップを踏んだ私どものアート・ドキュメンテーション研究会ですが、この一年近く、次に進むべき方向を模索しているというのが、正直なところですが。これまで通り、季刊の『通信』（現在27号まで）や年刊の『研究』（同じく4号まで）を刊行したり、下記の通り、年1回の総会を6月に開き、また見学会や研究集会も行っていますが、まだまだ、フォーラムでいただいたご意見・ご提言や幹事や会員が持ち帰った様々な反省を消化・吸収した上で、新たな展望を見いだすまでには至っていないようです。情報知識学会をはじめ、多くの組織や機関とも今後さらに連携させていただき、蝸牛の歩みであっても、少しずつ次なるフォーラム(?)へむけて力を注いでいきたいと思っています。

1995年度の主な活動

6月3日(土) 第6回総会 於：東京都現代美術館

6月3日(土) 第19回研究会 於：東京都現代美術館

佐藤寿子氏「東京都現代美術館における美術図書館の活動」

野崎たみ子氏「東京都現代美術館情報システムについて」

7月7日(金) 第9回見学会 於：日本コダック株式会社

「Kodak Photo CDシステム」

7月22日(土) 第10回講演会 於：東京都写真美術館

黒岩高明氏「映像資料のドキュメンテーション：過去・現在・未来」

※以下、予定です。(10月29日現在)

11月25日(土) 第20回研究会 於：立命館大学びわこ草津キャンパス

情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会と共催

「アート・ドキュメンテーションとコンピュータ」

米倉迪夫氏「アートドキュメンテーションの諸問題」

越智裕次郎氏「ロダン美術館(パリ)所蔵写真による画像データベース作成のための静岡県立美術館におけるシステム

坂井和美氏, 八村広三郎氏「マルチメディアによる地方中核都市における歴史・文化情報の発信:CD-ROMの作成」

江崎当平氏「アクロス福岡における文化情報システムの構築と問題点:ビデオオンデマンドによる検索システムの実現」

藤井浩美氏「A.T.E. (Art, Technology, Environment) プロジェクトにおけるネットワーク型ラボの試み」

上田修一氏, 神門典子氏「画像の認知の枠組みと索引法」

12月2日(土) 第21回研究会 於:慶應義塾大学三田校舎

美術情報をめぐって:会員相互の意見交換の場を作る試み(その1)

「問い合わせ先」

〒110 東京都台東区上野公園7-7

国立西洋美術館学芸課 波多野研究室内

アート・ドキュメンテーション研究会事務局

.....